

2025年度 新渡戸文化中学校・高等学校				Unit Plan(年間シラバス)						担当	長谷川/西村					
学年／コース		教科[中学]もしくは科目[高校]		重視される学びの自律型コンピテンシー												
高校3年α・β・探究		文学国語		自分をコントロールする Self-Control		他者とながら Communication		新しい価値を創造する Creation								
				目標設定	選択	対話	つながり	情報活用	創造表現	内発動機						
時間数		使用教科書		✔	課題発見	✔	戦略的学習力	✔	言語スキル	✔	協働性	✔	データサイエンス	✔	クリエイティビティ	未来志向
2時間／週		精選文学国語(三省堂)		✔	可能性発見	✔	自己修正	✔	双方向コミュニケーション	✔	ソーシャルリティ	✔	批判的思考	✔	論理的表現力	他者尊重
				✔	パーソナライズな学び	✔	レジリエンス	✔	感情のコントロール	✔	教科と社会を紐づける力	✔	情報リテラシー	<倫理観><双方向コミュニケーション><自己修正>		自己承認
	単元	単元の概要		学びの羅針盤(活動内容と評価基準)												
1 学期	・「山月記」 ・LT現代文2問題演習 ・「無常ということ」	・小説の読解を通して、表現に込められた作者の思いやメッセージを捉え、自分に引きつけて考え、その考えを言語化する。 ・社会問題とのつながりを意識し、自分の考えを表現することを試みる。 ・問題集を使つての問題演習を通して、読解力・表現力をつける。		社会的視点	A3 実社会から学びを得る		B3 実社会の問いを生む		C3 社会貢献のデザイン							
					教材に関連する社会的話題や記事を読み、現在問題となっていることを把握する。		現代社会における課題に自分の立場で何ができるのかを考え、他者と共有する		自分にできることを考え、具体的なイメージを作品に込めることで、社会の一員としての貢献をする。							
2 学期	・「南の貧困／北の貧困」 ・「である」と「する」こと ・LT現代文2問題演習	・評論文の読解を通して、説明方法の特徴を学び、自らの文章作成に活かせるようになる。 ・社会問題とのつながりを意識し、自分の考えを表現することを試みる。 ・問題集を使つての問題演習を通して、読解力・表現力をつける。		他者の視点	A2 本物の素材から学びを得る		B2 対話から問いを生む		C2 学外に向けて発表							
					新聞等のメディアに触れ、現実を捉える活動をする。		自分で考えたことをグループメンバーに発表し、対話でさまざまな考えに触れて、問いをまとめる。		適時、自分の探究テーマにあうコンテンツ等に出品。							
3 学期				個人的視点	A1 教科書から学びを得る		B1 個人の問いを生む		C1 校内で発表をする							
					小説読解、評論文読解、表現技法、語彙、漢字について		作者・筆者の主張を捉え、なぜその表現を使っているのか、ことばに込められた意識を想像する。その過程で様々な表現の可能性を探る。		問いに対しての自分の考えを言語化し、他者と共有できる。それらをプレゼンテーションし、相互評価し、さらによいものを創ろうと努力できる。							
					関わり Engage		探究 Investigate		行動 Act							
					評価方法					学びのリソース(教材・ICT)						
本質的な問いまたは単元を貫く問いの例		創造的な活動およびアウトプットの例		知識・技能	●単元テスト ●漢字小テスト ●授業課題学習の進捗状況(50%)		●創作活動 ●協働や発表 ●活動の貢献度(50%)		【教材】 教科書、iPad、LT現代文2 【ICT】 ・keynoteほか 【備考】 必要に応じて書籍、web							
「現代日本の抱える問題」を通して、その背景や原因に思いをはせ、どのようなことが自分のできるのかを考える。		「現代の問題に対する、自分の分析と解決策の提示をプレゼンする。他者の考えや想いを共有し、さらに考えを深め、具体的なアクションにつなげる。		思考力・判断力・表現力	漢字テスト、単元テストの再テストは実施しない。(公欠、出席停止は見込み点あり)											
ドキュメント(記録化)の方法 <共有と振り返りの日常化>		keynote、ノートの活用、フォームを利用した課題への取り組み		主体的に学習に取り組む態度												

2025年度 新渡戸文化中学校・高等学校				Unit Plan(年間シラバス)							担当	中村				
学年／コース		教科[中学]もしくは科目[高校]		重視される学びの自律型コンピテンシー												
高校3年／探究進学文系		古典演習		自分をコントロールする Self-Control		他者とつながる Communication		新しい価値を創造する Creation								
				目標設定	選択	対話	つながり	情報活用	創造表現	内発動機						
時間数		使用教科書		☒	課題発見	☐	戦略的学習力	☒	言語スキル	☒	協働性	☐	データサイエンス	☒	クリエイティビティ	未来志向
2時間／週				☐	可能性発見	☒	自己修正	☐	双方向コミュニケーション	☐	ソーシャルティ	☒	批判的思考	☐	論理的表現力	他者尊重
				☒	パーソナライズな学び	☒	レジリエンス	☐	感情のコントロール	☒	教科と社会を紐づける力	☐	情報リテラシー	<倫理観><双方向コミュニケーション><自己修正>		自己承認
	単元	単元の概要		学びの羅針盤(活動内容と評価基準)												
1 学期	・随筆 ・物語 ・俳諧	随筆や物語を読み、当時の生活や価値観、文化に触れることで、「古典」を学ぶ意義を考えるとともに、古典に親しむ。古典文法について学び、古典を読む基本的なスキルを身に着ける。		社会・世界的視点	A3 実社会から学びを得る		B3 実社会の問いを生む		C3 社会貢献のデザイン							
					古典作品にあらわれる時代背景や人間の生き方、考え方について学ぶ。											
2 学期	・説話集 ・日記	古典文学にあらわれる人間の生き方、考え方を学ぶ。古典の読解のためのスキルを身に着ける。		他者・地域的視点	A2 本物の素材から学びを得る		B2 対話から問いを生む		C2 学外に向けて発表							
					古典作品を読むことを通し、人間の生き方や価値観について気づくことができる。		自分の問いや解釈を共有できる。お互いの考えを擦り合わせながら、納得解や最適解のための対話ができる。									
3 学期				個人的視点	A1 教科書から学びを得る		B1 個人の問いを生む		C1 校内で発表をする							
					自分の問いや解釈を共有できる。お互いの考えを擦り合わせながら、納得解や最適解のための対話ができる。		自分の問いや解釈を共有できる。お互いの考えを擦り合わせながら、納得解や最適解のための対話ができる。		修正しながらより良い発表に向けて協力できる。学習成果をプレゼンテーションおよび相互評価することができる。							
					関わり Engage		探究 Investigate		行動 Act							
					評価方法					学びのリソース(教材・ICT)						
本質的な問いまたは単元を貫く問いの例 Heart		創造的な活動およびアウトプットの例 Hands		知識・技能	●単元テスト ●単語小テスト ●授業プリントなど学習の進捗状況 (50%)		●創作活動 ●協働や発表 ●活動の貢献度 (50%)		<教材> 古文単語330(いっずな書店)・基礎から学ぶ解析古典文法・基礎から学ぶ解析古典文法演習ノート <ICT> iPad・Keynote・iMovie・ロイロノートなど <備考>							
古典を学ぶ意義とは		現代版「奥の細道」 My文学史													思考力・判断力・表現力	
ドキュメント(記録化)の方法 <共有と振り返りの日常化> Head				主体的に学習に取り組む態度												

2025年度 新渡戸文化中学校・高等学校				Unit Plan(年間シラバス)						担当	中嶋・酒井・西村・中村						
学年／コース			教科[中学]もしくは科目[高校]		重視される学びの自律型コンピテンシー												
高3 探究進学コース			文章演習Ⅰ		自分をコントロールする Self-Control		他者とつながる Communication		新しい価値を創造する Creation								
					目標設定	選択	対話	つながり	情報活用	創造表現	内発動機						
時間数			使用教科書		☒	課題発見	☐	戦略的学習力	☒	言語スキル	☐	協働性	☐	データサイエンス	☒	クリエイティビティ	未来志向
2時間／週			小論文チャレンジノート 小論文頻出テーマチェック＆ワーク 小論文頻出テーマ解説集 現代を知るplus		☒	可能性発見	☒	自己修正	☒	双方向コミュニケーション	☒	ソーシャルリティ	☒	批判的思考	☒	論理的表現力	他者尊重
					☒	パーソナライズな学び	☒	レジリエンス	☒	感情のコントロール	☒	教科と社会を紐づける力	☒	情報リテラシー	<倫理観><双方向コミュニケーション><自己修正>		自己承認
					学びの羅針盤(活動内容と評価基準)												
単元			単元の概要														
1 学期	小論文演習		様々なテーマから社会の事象を捉え、テキストや書籍、新聞記事などを援用しながら、自分の見識を広め、そのインプットを自己推薦文、志望理由書、小論文などの文章にアウトプットする練習を繰り返し行う。		社会的視点 社会・世界の視点	A3 実社会から学びを得る		B3 実社会の問いを生む		C3 社会貢献のデザイン							
						NewsPicksを活用し、新聞記事(実社会)から、学びを得る。		新聞記事(実社会)から、問いを生む。		小論文演習を通して、大学進学だけではなく、自身のキャリアや社会貢献に関するデザインを考える。							
2 学期	小論文演習		様々なテーマから社会の事象を捉え、テキストや書籍、新聞記事などを援用しながら、自分の見識を広め、そのインプットを自己推薦文、志望理由書、小論文などの文章にアウトプットする練習を繰り返し行う。		他者の視点 地域・他者の視点	A2 本物の素材から学びを得る		B2 対話から問いを生む		C2 学外に向けて発表							
						書籍、WEB等から学びを得る。		新聞記事をもとにした発表から、対話を通して考えを深める。									
3 学期					個人的視点 個人の視点	A1 教科書から学びを得る		B1 個人の問いを生む		C1 校内で発表をする							
						テーマ別の基礎知識をテキストから得る。		書籍や新聞記事、WEBを通して、自分なりの問いを生む。		テーマごとの発表から、対話を通して考えを深める。							
					関わり Engage		探究 Investigate		行動 Act								
					評価方法					学びのリソース(教材・ICT)							
本質的な問いまたは単元を貫く問いの例			創造的な活動およびアウトプットの例		知識・技能		●単元テスト(30%) ●小テスト・授業課題等学習の進捗状況(20%)		●創作活動 ●協働や発表 ●活動の貢献度(50%)		<教材> 現代を知るplus(第一学習社) チェック＆ワーク(第一学習社) <ICT> iPad・ロイロノートなど <備考> NewsPicks活用						
自分の興味関心分野、進路について考える			NewsPicksのコメント欄に自身の考えを400字程度で論じる。 志望理由書を書く。		思考力・判断力・表現力												
ドキュメント(記録化)の方法 <共有と振り返りの日常化>					主体的に学習に取り組む態度												

2025年度 新渡戸文化中学校・高等学校				Unit Plan(年間シラバス)								担当	高橋			
学年／コース		教科[中学]もしくは科目[高校]		重視される学びの自律型コンピテンシー												
高3 探究進学コース		文章演習Ⅱ		自分をコントロールする Self-Control		他者とつながる Communication		新しい価値を創造する Creation								
				目標設定	選択	対話	つながり	情報活用	創造表現	内発動機						
時間数		使用教科書		☒	課題発見	☐	戦略的学習力	☒	言語スキル	☐	協働性	☐	データサイエンス	☒	クリエイティビティ	未来志向
2時間／週		小論文チャレンジノート 小論文頻出テーマチェック&ワーク 小論文頻出テーマ解説集 現代を知るplus		☒	可能性発見	☒	自己修正	☒	双方向コミュニケーション	☒	ソーシャルリティ	☒	批判的思考	☒	論理的表現力	他者尊重
				☒	パーソナライズな学び	☒	レジリエンス	☒	感情のコントロール	☒	教科と社会を結ぶ力	☒	情報リテラシー	<倫理観><双方向コミュニケーション><自己修正>		自己承認
				学びの羅針盤(活動内容と評価基準)												
単元	単元の概要			A3 実社会から学びを得る		B3 実社会の問いを生む		C3 社会貢献のデザイン								
1 学期	小論文演習	様々なテーマから社会の事象を捉え、テキストや書籍、新聞記事などを援用しながら、自分の見識を広め、そのインプットを自己推薦文、志望理由書、小論文などの文章にアウトプットする練習を繰り返し行う。		社会・世界的視点 点 他者・地域的視点 点 個人的視点 点	NewsPicksを活用し、新聞記事(実社会)から、学びを得る。		新聞記事(実社会)から、問いを生む。		小論文演習を通して、大学進学だけではなく、自身のキャリアや社会貢献に関するデザインを考える。							
					A2 本物の素材から学びを得る		B2 対話から問いを生む		C2 学外に向けて発表							
2 学期	小論文演習	様々なテーマから社会の事象を捉え、テキストや書籍、新聞記事などを援用しながら、自分の見識を広め、そのインプットを自己推薦文、志望理由書、小論文などの文章にアウトプットする練習を繰り返し行う。 ・			書籍、WEB等から学びを得る。		新聞記事をもとにした発表から、対話を通して考えを深める。									
					A1 教科書から学びを得る		B1 個人の問いを生む		C1 校内で発表をする							
3 学期	・ ・	・ ・		テーマ別の基礎知識をテキストから得る。		書籍や新聞記事、WEBを通して、自分なりの問いを生む。		テーマごとの発表から、対話を通して考えを深める。								
				関わり Engage		探究 Investigate		行動 Act								
				評価方法						学びのリソース(教材・ICT)						
本質的な問いまたは単元を貫く問いの例		創造的な活動およびアウトプットの例		知識・技能		●単元テスト(30%) ●小テスト・授業課題等学習の進捗状況(20%)		●創作活動 ●協働や発表 ●活動の貢献度(50%)		<教材> 現代を知るplus(第一学習社) チェック&ワーク(第一学習社) <ICT> iPad・ロイロノートなど <備考> NewsPicks活用						
自分の興味関心分野、進路について考える		NewsPicksのコメント欄に自身の考えを400字程度で論じる。 志望理由書を書く。		思考力・判断力・表現力												
ドキュメント(記録化)の方法 <共有と振り返りの日常化>		NewsPicksのコメント機能、プリント利用した課題への取り組み		主体的に学習に取り組む態度												

2025年度 新渡戸文化中学校・高等学校				Unit Plan(年間シラバス)						担当	片岡鉄平					
学年／コース		教科[中学]もしくは科目[高校]		重視される学びの自律型コンピテンシー												
高3／全コース		政治・経済		自分をコントロールする Self-Control		他者とつながる Communication		新しい価値を創造する Creation								
				目標設定	選択	対話	つながり	情報活用	創造表現	内発動機						
時間数		使用教科書		☒	課題発見	☐	戦略的学習力	☐	言語スキル	☒	協働性	☐	データサイエンス	☐	クリエイティビティ	未来志向
2時間／週		最新政治・経済 実教出版		☒	可能性発見	☐	自己修正	☒	双方向コミュニケーション	☒	ソーシャルリティ	☒	批判的思考	☒	論理的表現力	他者尊重
				☒	パーソナライズな学び	☐	レジリエンス	☐	感情のコントロール	☒	教科と社会を紐づける力	☒	情報リテラシー	<倫理観><双方向コミュニケーション><自己修正>		自己承認
	単元	単元の概要		学びの羅針盤(活動内容と評価基準)												
1 学期	・現代の政治	・新聞記事や録画した番組も活用しながら、現代の政治や経済のしくみを理解するとともに、問題点や課題を知り、社会に出て、政治や経済について、自ら考え、判断できる力を養う。 ・実際に議員の方や弁護士の方に来て頂いて、政治家の仕事や裁判について知る。		社会的視点	A3 実社会から学びを得る		B3 実社会の問いを生む		C3 社会貢献のデザイン							
					現在起きている現代社会の諸課題を知る。		現代社会の諸課題を知ることで、現代社会の問題を理解する。		現代社会の諸課題を通じてわたしたちが出来ることを考える。							
2 学期	・現代の経済	・新聞記事や録画した番組も活用しながら、現代の政治や経済のしくみを理解するとともに、問題点や課題を知り、社会に出て、政治や経済について、自ら考え、判断できる力を養う。 ・投資や税の専門家に来て頂き、教科書では触れられていない、実際の運用や仕組みについて学ぶ。		地域的視点 他者	A2 本物の素材から学びを得る		B2 対話から問いを生む		C2 学外に向けて発表							
					新聞やネットニュース、現代諸課題を取り上げた番組を視聴する。特に新聞を活用した実践を重視する。		学習した内容を自分の言葉としてアウトプットし、疑問など新たな学びにつなげることができる。									
					A1 教科書から学びを得る		B1 個人の問いを生む		C1 校内で発表をする							
							疑問から、話を広げて、共有化する。		グループワークで調べた内容を発表し、共有する。							
3 学期	・	・		個人的視点												
					関わり Engage		探究 Investigate		行動 Act							
				評価方法					学びのリソース(教材・ICT)							
本質的な問いまたは単元を貫く問いの例 Heart		創造的な活動およびアウトプットの例 Hands		知識・技能	●プレゼン発表		●ロイロノートなどでの課題提出		<教材> iPad <ICT> Google classroom ロイロノート <備考> 必要に応じて 新聞記事やネットニュースの共有、Web動画や録画した番組の視聴、Webソフトを活用する。							
・より良い社会にしていこうためにはどうしたら良いのか ・みんなが幸せになれる社会とは		・「10代と20代の投票率の差について考える」 ・少子化問題を考える			思考力・判断力・表現力											
ドキュメント(記録化)の方法 <共有と振り返りの日常化> Head		"Google classroom ロイロノート(アナログの提出物は全てデータ化して提出)"		主体的に学習に取り組む態度												

2025年度 新渡戸文化中学校・高等学校				Unit Plan(年間シラバス)				担当	片岡鉄平							
学年／コース		教科[中学]もしくは科目[高校]		重視される学びの自律型コンピテンシー												
高校3年4コース		世界史探究		自分をコントロールする Self-Control		他者とつながる Communication		新しい価値を創造する Creation								
				目標設定	選択	対話	つながり	情報活用	創造表現	内発動機						
時間数		使用教科書		☒	課題発見	☒	戦略的学習力	☒	言語スキル	☒	協働性	☒	データサイエンス	☐	クリエイティビティ	未来志向
4時間／週 (うち片岡担当2時間)		『高校世界史』山川出版社		☒	可能性発見	☒	自己修正	☒	双方向コミュニケーション	☒	ソーシャルリティ	☒	批判的思考	☒	論理的表現力	他者尊重
				☒	パーソナライズな学び	☐	レジリエンス	☐	感情のコントロール	☒	教科と社会を紐づける力	☒	情報リテラシー	<倫理観><双方向コミュニケーション><自己修正>		自己承認
単元		単元の概要		学びの羅針盤(活動内容と評価基準)												
1 学期	・国際秩序の変化や大衆化と私たち ・グローバル化と私たち	・現代に繋がる大衆運動や国際秩序を通じて、現代の諸問題の根源は何であったのか考える。 ・国際秩序の変化や両大戦に繋がる動きを考察することで、現代社会の諸問題に対して、我々はどうのような判断をしなければならないのか考える。 ・戦後の諸問題、国際秩序を考察することで、現代の諸問題にどう向き合えばよいのか考える。	世界的視点・社会	A3 実社会から学びを得る		B3 実社会の問いを生む		C3 社会貢献のデザイン								
				現在起きている問題と世界史との関連を考える。		世界史を学ぶことで、現代社会の問題の原因を理解する。		歴史を学ぶことで、世界中どここの文化も理解できる寛容な人間を育てる。								
2 学期	・中央ユーラシアと東アジア世界 ・南アジア世界と東アジア世界の展開 ・イスラーム教の成立 ・イスラーム教の伝播と西アジアの動向 ・東アジア世界の展開とモンゴル帝国 ・アジアの諸帝国の繁栄	・アジア諸地域の歴史を学ぶことで、現代に通じる諸問題の解決に繋げる。 ・イスラーム教の正しい理解を通じて、宗教問題や対立の解決について考える。	他者・地域的視点	A2 本物の素材から学びを得る		B2 対話から問いを生む		C2 学外に向けて発表								
				画像データを利用して提示する。		学習した内容を自分の言葉としてアウトプットし、疑問など新たな学びにつなげることができる。										
3 学期			個人的視点	A1 教科書から学びを得る		B1 個人の問いを生む		C1 校内で発表をする								
				教科書の内容を基本にして、教科書に書かれている知識を用いて考えることができるようにする。		疑問から、話を広げて、共有化する。		グループワークで調べた内容を発表し、共有する。								
				関わり Engage		探究 Investigate		行動 Act								
				評価方法					学びのリソース(教材・ICT)							
本質的な問いまたは単元を貫く問いの例		創造的な活動およびアウトプットの例		知識・技能	●単元テスト ●アウトプット型テスト ●問題ノート	●創作活動 ●授業まとめ	【教材】 iPad 『ニューステージ世界史照覧』山川出版社 『高校世界史ノート 世界史探究』山川出版社 【ICT】 Google classroom ロイロノート 【備考】 必要に応じて Web動画や録画した番組の視聴、Webソフトを活用する。									
日本史と世界史を関連付けながら、過去と現代との繋がりを意識し、歴史を考える力、現代社会を生きる力を養う。		授業で学んだこと、自分で勉強した知識をもとに、自分の意見を発信する。 ・ディベートを通じて発信力を身につける。 ・グループワークを通じて自分の考えを構築する。						思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度							
ドキュメント(記録化)の方法 <共有と振り返りの日常化>		"Google classroom ロイロノート(アナログの提出物は全てデータ化して提出)"														

2025年度 新渡戸文化中学校・高等学校				Unit Plan(年間シラバス)						担当	藤木					
学年／コース		教科[中学]もしくは科目[高校]		重視される学びの自律型コンピテンシー												
高校3年探究コース		日本史探究		自分をコントロールする Self-Control		他者とつながる Communication		新しい価値を創造する Creation								
				目標設定	選択	対話	つながり	情報活用	創造表現	内発動機						
時間数		使用教科書		☒	課題発見	☒	戦略的学習力	☒	言語スキル	☒	協働性	☒	データサイエンス	☒	クリエイティビティ	未来志向
4時間／週		山川出版社高校日本史		☒	可能性発見	☒	自己修正	☒	双方向コミュニケーション	☒	ソーシャリティ	☒	批判的思考	☒	論理的表現力	他者尊重
				☒	パーソナライズな学び	☒	レジリエンス	☒	感情のコントロール	☒	教科と社会を紐づける力	☒	情報リテラシー	<倫理観><双方向コミュニケーション><自己修正>		自己承認
	単元	単元の概要		学びの羅針盤(活動内容と評価基準)												
1 学期	・日本の現代史 ・日本の旧石器時代から平安時代	・日本の終戦後、GHQによる占領、日本国憲法の制定、戦後政治史の流れ、高度経済成長をさまざまな資料を利用して学習していく ・日本の旧石器時代から平安時代について史料を中心に概観する。特に政治・経済・社会システムなどを中心に学習する		社会・世界的視点	A3 実社会から学びを得る		B3 実社会の問いを生む		C3 社会貢献のデザイン							
					政治や経済、社会について学習したことをもとに歴史についての関心を高め、学びを深めることができる。		学習した内容をもとに日本の歴史について興味を高め、新たな学習課題を持つことができる。		学習した内容をもとに、減税の日本の社会や文化に対する関心を高めることができる							
2 学期	・日本の鎌倉時代から室町時代 ・日本の安土桃山時代から江戸時代	・平氏政権から戦国時代に関して、政治の動きや社会の変動、文化について概観する。特に鎌倉時代初期の政治の動き、元寇、南北朝、民衆の成長を中心に学習する ・鉄砲伝来以降の安土桃山時代、黒船来航直前までの江戸時代を中心に、政治、社会、文化の動きを学習する。特に江戸初期までの政治情勢、江戸時代の社会・文化の進展を中心に学習する		他者・地域的視点	A2 本物の素材から学びを得る		B2 対話から問いを生む		C2 学外に向けて発表							
					史料や映像、実物教材などから、各時代について学習したことをより深く学びを深めることができる。		学習した内容をもとにさまざまな事項に対して自分の言葉としてアウトプットし、疑問など新たな学びにつなげることができる。		学習した内容を学外を対象に発信し、新たな学びにつなげることができる。							
3 学期	・ ・	・ ・		個人的視点	A1 教科書から学びを得る		B1 個人の問いを生む		C1 校内で発表をする							
					教科書を中心とした知識が身につく、日本史に関する基本的な情報がわかる。		学習した内容から、疑問点や不明な点を言語化し、さらに学びを深めることができる。		学習した内容をまとめプレゼンテーションし、相互評価できる。							
					関わり Engage		探究 Investigate		行動 Act							
					評価方法					学びのリソース(教材・ICT)						
本質的な問いまたは単元を貫く問いの例		創造的な活動およびアウトプットの例			知識・技能	●単元テスト・小テスト30%		●アウトプットテスト40% ●授業課題の取り組みおよび提出・ふりかえりシート30%		【教材】高校日本史(山川出版社) ゼミナール日本史(浜島書店) 日本史重要資料集(浜島書店) 【ICT】 ・グーグルクラスルーム 【備考】 実物史料・映像資料						
・日本史を学ぶ意味とは ・その時代と今とのつながりについて ・各時代の人はどう暮らしていたのか ・各時代はどういう特徴があるのか		・各時代で起きた特徴的な事件や時代を代表する人物について、自分の考えもとにまとめ、発表できる											思考力・判断力・表現力			
ドキュメント(記録化)の方法 <共有と振り返りの日常化>		・Google Classroom(進捗課題および予定の確認) ・オリジナルプリントの配布			主体的に学習に取り組む態度											

2025年度 新渡戸文化中学校・高等学校				Unit Plan(年間シラバス)						担当	吉田 茂	
学年／コース		教科[中学]もしくは科目 [高校]		重視される学びの自律型コンピテンシー								
高校3年3コース		日本史探究		自分をコントロールする Self-Control		他者につながる Communication		新しい価値を創造する Creation				
時間数		使用教科書		目標設定	選択	対話	つながり	情報活用	創造表現	内発動機		
4時間／週		山川出版社高校日本史		☒ 課題発見	☒ 戦略的学習力	☒ 言語スキル	☐ 協働性	☐ データサイエンス	☒ クリエイティビティ	未来志向		
				☒ 可能性発見	☒ 自己修正	☒ 双方向コミュニケーション	☒ ソーシャリティ	☒ 批判的思考	☒ 論理的表現力	他者尊重		
				☒ パーソナライズな学び	☒ レジリエンス	☒ 感情のコントロール	☒ 教科と社会を結ぶ力	☒ 情報リテラシー	<倫理観><双方向コミュニケーション><自己修正>	自己承認		
単元		単元の概要		学びの羅針盤(活動内容と評価基準)								
1 学期	・日本の現代史 ・日本の旧石器時代から平安時代	・終戦後から高度経済成長、長期不況を経て安定成長への経緯について学習する。 ・旧石器から平安時代について、史料や実物教材等を中心に概観する。縄文・弥生・古墳・大和・大化の改新・律令・摂関政治・武士の発生を中心に学習する。		近 世 ・世界的視点 ・社会 ・地域 ・他者	A3 実社会から学びを得る		B3 実社会の問いを生む		C3 社会貢献のデザイン			
			現代社会の出来事・仕組みと学習した知識等を結びつけ、学びを深めることができる。		学習した内容と現実社会を関連させ、新たな課題・疑問点を言語化することができる。							
2 学期	・日本の鎌倉時代から室町時代 ・日本の安土桃山時代から江戸時代	・平氏政権から戦国時代にかけて、政治・社会の変動、文化について概観する。鎌倉時代初期の政治の動き、執権先制、元寇、南北朝、民衆の成長を中心に学習する。 ・鉄砲伝来以降の安土桃山時代、黒船来航直前までの江戸時代を中心に、政治、社会、文化の動きを学習する。特に江戸初期までの政治情勢、江戸時代の社会・文化の進展を中心に学習する。		近 世 ・地域 ・他者	A2 本物の素材から学びを得る		B2 対話から問いを生む		C2 学外に向けて発表			
			画像データや実物教材などから学習したことを結び付けて、学びを深めることができる。		学習した内容を自分の言葉としてアウトプットし、疑問など新たな学びにつなげることができる。		学習した内容を学外を対象に発信し、新たな学びにつなげることができる(コンクールの応募や検定など)。					
3 学期	・ ・	・ ・		近 世 ・個人的視点	A1 教科書から学びを得る		B1 個人の問いを生む		C1 校内で発表をする			
			教科書を中心とした知識が身につく、公民や歴史に関する基本的な知識を得、情報がわかる		学習した内容から、疑問点や不明な点を言語化し、さらに学びを深めることができる。		学習した内容をまとめてプレゼンテーションし、相互評価できる。					
					関わり Engage		探究 Investigate		行動 Act			
				評価方法						学びのリソース(教材・ICT)		
本質的な問いまたは単元を貫く問いの例 Heart		創造的な活動およびアウトプットの例 Hands		知識・技能	●単元テスト ●Google classroomの課題 ●ノートチェック ●プレゼンによる評価		●Google classroomの課題 ●ICTアプリによる創作学習 ●プレゼンによる評価 ●その他創作活動学習		<教材> 歴史総合 山川出版社 高校日本史(日本史探究)山川出版社			
・戦後史における「平和」はどう変化したか？ ・縄文時代→弥生時代へ移行は進化なのか？ ・古代史における危機管理は正しかったか？		・戦後歌謡史を通して「平和」について考える ・当該時代と前の時代の変化におけるメリット・デメリットについて考える		思考力・判断力・表現力	・基礎学習など認知分野30% ・表現、考察など非認知分野30% ・アウトプットテスト40% で評価 →アウトプットテスト欠席者は要相談(条件による)				<ICT> ipad グーグルクラスルーム 他、ICTアプリ <備考> 実物教材			
ドキュメント(記録化)の方法 <共有と振り返りの日常化> Head		・パドレット(進捗状況及び、調べ学習の成果) ・GoogleClassRoom(調べ学習の評価及び課題提出の成果) ・単元確認学習		主体的に学習に取り組む態度								

2025年度 新渡戸文化中学校・高等学校				Unit Plan(年間シラバス)						担当	芥					
学年／コース		教科[中学]もしくは科目[高校]		重視される学びの自律型コンピテンシー												
高校3年 探究進学理系コース		数学Ⅲ		自分をコントロールする Self-Control		他者とつながる Communication		新しい価値を創造する Creation								
				目標設定	選択	対話	つながり	情報活用	創造表現	内発 動機						
時間数		使用教科書		☒	課題発見	☒	戦略的学習力	☒	言語スキル	☐	協働性	☒	データサイエ ンス	☐	クリエイティビ ティ	未来 志向
4時間／週		数研出版 新編数学Ⅲ		☒	可能性発見	☒	自己修正	☒	双方向コミュ ニケーション	☐	ソーシャルティ	☒	批判的思考	☒	論理的表現力	他者 尊重
				☒	パーソナライ ズな学び	☒	レジリエンス	☒	感情の コントロール	☒	教科と社会を 結ぶ力	☒	情報リテラ シー	<倫理観><双方向コミュ ニケーション><自己修正>		自己 承認
	単元	単元の概要		学びの羅針盤(活動内容と評価基準)												
1 学期	・積分法とその応用	・単元の意義を考え、概念を理解し、基本的な原理・法則を用いた処理ができる。 ・積分法の性質を理解し、事象を数学的に捉えて簡潔・明瞭・的確に表現できる。 ・本質的な問いに従って、問題解決の過程における粘り強さ・数学的論拠・表現のよさに気づき、評価・改善ができる。		社会的 視点	A3 実社会から学びを得る		B3 実社会の問いを生む		C3 社会貢献のデザイン							
					実社会や世界のデータを検索し事象の数値を比較・分析したものを選択した方法で表現できる。※リアルな体験を通してB3につなげる可能性もある。											
2 学期	自律学習	・本質的な問いに従って、問題解決の過程における粘り強さ・数学的論拠・表現のよさに気づき、評価・改善ができる。 ・学習の過程を振り返って考察を深め、評価し、改善することができる。		他者・ 地域的 視点	A2 本物の素材から学びを得る		B2 対話から問いを生む		C2 学外に向けて発表							
					日常の事象から問いを発見し、解を導くことができる。		日常の事象もしくは実社会の問題に対して、役割分担を行い、解決や創造のアウトプットを共創する。									
3 学期				個人的 視点	A1 教科書から学びを得る		B1 個人の問いを生む		C1 校内で発表をする							
					基本事項の本質的な理解につとめ、基本問題を解くことができる。		手順の違う解法など他者の意見の理解に努め、学び方に向き合う姿勢が見られる。また、それらを自己評価することができる。		学習成果を共有・プレゼンテーションおよび相互評価することができる。							
					関わり Engage		探究 Investigate		行動 Act							
				評価方法						学びのリソース(教材・ICT)						
本質的な問いまたは単元を貫く問いの例		創造的な活動およびアウトプットの例		知識・技能	●単元テスト (50%)		●学習の進捗 ●振り返り ●主体的な学習活動 (50%)		【教材】 授業プリント・iPad・入試問題など 【ICT】 ・教科サイト 【備考】							
				思考力・判断力・表現力												
ドキュメント(記録化)の方法 <共有と振り返りの日常化>		・Google Classroom		主体的に学習に取り組む態度												

2025年度 新渡戸文化中学校・高等学校				Unit Plan(年間シラバス)										担当	芥	
学年／コース		教科[中学]もしくは科目[高校]		重視される学びの自律型コンピテンシー												
高校3年 探究進学(医療理系)コース		数学C		自分をコントロールする Self-Control			他者とながら Communication			新しい価値を創造する Creation						
				目標設定	選択	対話	つながり	情報活用	創造表現	内発 動機						
時間数		使用教科書		☒	課題発見	☒	戦略的学習力	☒	言語スキル	☒	協働性	☒	データサイエ ンス	☒	クリエイティビ ティ	未来 志向
2時間／週		数研出版 新編 数学C		☒	可能性発見	☒	自己修正	☒	双方向コミュ ニケーション	☒	ソーシャルリテ	☒	批判的思考	☒	論理的表現力	他者 尊重
				☒	パーソナライ ズな学び	☒	レジリエンス	☒	感情の コントロール	☒	教科と社会を 結ぶ力	☒	情報リテラ シー	<倫理観><双方向コミュ ニケーション><自己修正>		自己 承認
	単元	単元の概要		学びの羅針盤(活動内容と評価基準)												
1 学期	・複素数平面 ・数学的な表現の工夫	・単元の意義を考え、概念を理解し、基本的な原理・法則を用いた処理ができる。 ・複素数平面・行列の性質を理解し、事象を数学的に捉えて簡潔・明瞭・的確に表現できる。 ・本質的な問いに従って、問題解決の過程における粘り強さ・数学的論拠・表現のよさに気づき、評価・改善ができる。		点 社会・世界 的視点	A3 実社会から学びを得る			B3 実社会の問いを生む			C3 社会貢献のデザイン					
					実社会や世界のデータを探索し事象の数値を比較・分析したものを選択した方法で表現できる。※リアルな体験を通してB3につなげる可能性もある。											
2 学期	自律学習	・本質的な問いに従って、問題解決の過程における粘り強さ・数学的論拠・表現のよさに気づき、評価・改善ができる。 ・学習の過程を振り返って考察を深め、評価し、改善することができる。		点 他者・地域 的視点	A2 本物の素材から学びを得る			B2 対話から問いを生む			C2 学外に向けて発表					
					日常の事象から問いを発見し、解を導くことができる。			日常の事象もしくは実社会の問題に対して、役割分担を行い、解決や創造のアウトプットを共創する。								
3 学期				点 個人の 視点	A1 教科書から学びを得る			B1 個人の問いを生む			C1 校内で発表をする					
					基本事項の本質的な理解につとめ、基本問題を解くことができる。			手順の違う解法など他者の意見の理解に努め、学び方に向き合う姿勢が見られる。また、それらを自己評価することができる。			学習成果を共有・プレゼンテーションおよび相互評価することができる。					
					関わり Engage			探究 Investigate			行動 Act					
				評価方法								学びのリソース(教材・ICT)				
本質的な問いまたは単元を貫く問いの例		創造的な活動およびアウトプットの例		知識・技能	●単元テスト ●受験対策ノート提出 ●授業時解答板書 ●問題プリント提出 ●スタサブ提出			●創作活動 ●受験対策ノート工夫 ●入試問題解説プレゼンと口頭試問			【教材】 ・教科書、参考書、スタサブ 【ICT】 ・教科サイト、教科書デジタルコンテンツ、スタサブ、GRAPES 【備考】					
数学ⅠAⅡBの既習内容との統合的理解と活用		別解の理解と活用												思考力・判断力・表現力		
ドキュメント(記録化)の方法 <共有と振り返りの日常化>		受験対策ノート(My参考書)の恒常的使用		主体的に学習に取り組む態度												

2025年度 新渡戸文化中学校・高等学校				Unit Plan(年間シラバス)										担当	石井								
学年／コース			教科[中学]もしくは科目[高校]		重視される学びの自律型コンピテンシー																		
高校3年 探究進学コース			数学/数学ⅠA演習		自分をコントロールする Self-Control			他者とつながる Communication			新しい価値を創造する Creation												
					目標設定	選択		対話	つながり		情報活用	創造表現		内発 動機									
時間数			使用教科書		☑	課題発見		☑	戦略的学習力		☑	言語スキル		☑	協働性		☑	データサイエ ンス		☑	クリエイティ ビティ		未来 志向
2時間／週			ニューステージ数学演習ⅠAⅡBC 数研出版		☑	可能性発見		☑	自己修正		☑	双方向コミュ ニケーション		☐	ソーシャルティ		☑	批判的思考		☑	論理的表現力		他者 尊重
					☑	パーソナライ ズな学び		☑	レジリエンス		☑	感情の コントロール		☑	教科と社会を 紐づける力		☑	情報リテラ シー		<倫理観><双方向コミュ ニケーション><自己修正>			
	単元		単元の概要		学びの羅針盤(活動内容と評価基準)																		
1 学期	・数学ⅠA全範囲 CHECK 問題		・数学ⅠA全範囲 CHECK問題		社会的視点	A3 実社会から学びを得る				B3 実社会の問いを生む				C3 社会貢献のデザイン									
						実社会でいかに活用されているかを調べる。																	
2 学期	・数学ⅠA全範囲 CHECK 問題		・数学ⅠA全範囲 CHECK問題		他者の視点	A2 本物の素材から学びを得る				B2 対話から問いを生む				C2 学外に向けて発表									
						模試、入試問題の解法を身につける。 問答法による問いの創出																	
3 学期	・数学ⅠA全範囲 CHECK 問題		・数学ⅠA全範囲 CHECK問題		個人的視点	A1 教科書から学びを得る				B1 個人の問いを生む				C1 校内で発表をする									
						基本事項の本質的な理解に努め、基本問題を解くことができる。				学び方に向き合う姿勢が見られる。				学習成果を発表する。									
						関わり Engage				探究 Investigate				行動 Act									
					評価方法								学びのリソース(教材・ICT)										
本質的な問いまたは単元を貫く問いの例			創造的な活動およびアウトプットの例		知識・技能	●問題演習 ●スタサプテスト (50%)				●アウトプット型テスト ●活動の貢献度 (50%)				<教材> 問題集ニューステージ数学ⅠAⅡB演習・スタディサプリ・問題プリント <ICT> Padlet・Grapes・Geogebra・Keynote ・スプレッドシートほか <備考> 必要に応じて Web動画, Webソフトを活用する									
・学んだ数学的な事実を実社会でどのように用いるのか			・数学的な事実を実社会で使う場面に對して、自分の考えを動画でまとめることができる		思考力・判断力・表現力																		
ドキュメント(記録化)の方法 <共有と振り返りの日常化>			・Google Classroom(進捗課題および予定の確認) ・Padlet(進捗共有および作品共有)		主体的に学習に取り組む態度																		

2025年度 新渡戸文化中学校・高等学校				Unit Plan(年間シラバス)								担当	石井				
学年／コース			教科[中学]もしくは科目[高校]		重視される学びの自律型コンピテンシー												
高校3年 探究進学コース			数学/数学ⅡB演習		自分をコントロールする Self-Control			他者とつながる Communication		新しい価値を創造する Creation							
					目標設定	選択	対話	つながり	情報活用	創造表現	内発動機						
時間数			使用教科書		☒	課題発見	☒	戦略的学習力	☒	言語スキル	☒	協働性	☒	データサイエンス	☒	クリエイティビティ	未来志向
2時間／週			ニューステージ数学演習ⅠAⅡBC 数研出版		☒	可能性発見	☒	自己修正	☒	双方向コミュニケーション	☐	ソーシャルティ	☒	批判的思考	☒	論理的表現力	他者尊重
					☒	パーソナライズな学び	☒	レジリエンス	☒	感情のコントロール	☒	教科と社会を紐づける力	☒	情報リテラシー	<倫理観><双方向コミュニケーション><自己修正>		自己承認
	単元	単元の概要		学びの羅針盤(活動内容と評価基準)													
1 学期	・数学Ⅱ全範囲 CHECK問題	・数学Ⅱ全範囲 CHECK問題		社会的視点	A3 実社会から学びを得る			B3 実社会の問いを生む			C3 社会貢献のデザイン						
					実社会でいかに活用されているかを調べる。												
2 学期	・数学Ⅱ全範囲 CHECK問題	・数学Ⅱ全範囲 CHECK問題		他者の視点	A2 本物の素材から学びを得る			B2 対話から問いを生む			C2 学外に向けて発表						
					模試、入試問題の解法を身につける。 問答法による問いの創出												
3 学期	・数学Ⅱ全範囲 CHECK問題	・数学Ⅱ全範囲 CHECK問題		個人的視点	A1 教科書から学びを得る			B1 個人の問いを生む			C1 校内で発表をする						
					基本事項の本質的な理解に努め、基本問題を解くことができる。			学び方に向き合う姿勢が見られる。			学習成果を発表する。						
								関わり Engage			探究 Investigate			行動 Act			
				評価方法									学びのリソース(教材・ICT)				
本質的な問いまたは単元を貫く問いの例		創造的な活動およびアウトプットの例		知識・技能	●問題演習 ●スタサプテスト (50%)			●アウトプット型テスト ●活動の貢献度 (50%)			<教材> 問題集ニューステージ数学ⅠAⅡB演習・スタディサプリ・問題プリント <ICT> Padlet・Grapes・Geogebra・Keynote ・スプレッドシートほか <備考> 必要に応じて Web動画, Webソフトを活用する						
・学んだ数学的な事実を実社会でどのように用いるのか		・数学的な事実を実社会で使う場面に對して、自分の考えを動画でまとめることができる												思考力・判断力・表現力			
ドキュメント(記録化)の方法 <共有と振り返りの日常化>		・Google Classroom(進捗課題および予定の確認) ・Padlet(進捗共有および作品共有)		主体的に学習に取り組む態度													

2025年度 新渡戸文化中学校・高等学校				Unit Plan(年間シラバス)							担当	芥				
学年／コース		教科[中学]もしくは科目[高校]		重視される学びの自律型コンピテンシー												
高校3年 探究進学コース		数学/数学Ⅲ演習		自分をコントロールする Self-Control		他者とつながる Communication		新しい価値を創造する Creation								
				目標設定	選択	対話	つながり	情報活用	創造表現	内発動機						
時間数		使用教科書		☒	課題発見	☒	戦略的学習力	☒	言語スキル	☒	協働性	☒	データサイエンス	☒	クリエイティビティ	未来志向
2時間／週		ニューステージ数学演習Ⅰ AⅡ BC 数研出版		☒	可能性発見	☒	自己修正	☒	双方向コミュニケーション	☐	ソーシャルリティ	☒	批判的思考	☒	論理的表現力	他者尊重
				☒	パーソナライズな学び	☒	レジリエンス	☒	感情のコントロール	☒	教科と社会を紐づける力	☒	情報リテラシー	<倫理観><双方向コミュニケーション><自己修正>		自己承認
	単元	単元の概要		学びの羅針盤(活動内容と評価基準)												
1 学期	・数学Ⅰ ・数学A ・数学Ⅱ	・ニューステージ数学Ⅰ全範囲 ・ニューステージ数学A全範囲 ・ニューステージ数学Ⅱ全範囲		社会的視点 社会	A3 実社会から学びを得る			B3 実社会の問いを生む			C3 社会貢献のデザイン					
					実社会や世界のデータを検索し事象の数値を比較・分析したものを選択した方法で表現できる。※リアルな体験を通してB3につなげる可能性もある。											
2 学期	・数学B ・数学C ・問題演習	・ニューステージ数学B全範囲 ・ニューステージ数学C全範囲 ・共通テストなどの入試問題演習		他者の視点 地域	A2 本物の素材から学びを得る			B2 対話から問いを生む			C2 学外に向けて発表					
					日常の事象から問いを発見し、解を導くことができる。			日常の事象もしくは実社会の問題に対して、役割分担を行い、解決や創造のアウトプットを共創する。								
3 学期				個人的視点 個人	A1 教科書から学びを得る			B1 個人の問いを生む			C1 校内で発表をする					
					基本事項の本質的な理解につとめ、基本問題を解くことができる。			手順の違う解法など他者の意見の理解に努め、学び方に向き合う姿勢が見られる。また、それらを自己評価することができる。			学習成果を共有・プレゼンテーションおよび相互評価することができる。					
					関わり Engage			探究 Investigate			行動 Act					
				評価方法						学びのリソース(教材・ICT)						
本質的な問いまたは単元を貫く問いの例 ・学んだ数学的な事実を実社会でどのように用いるのか		創造的な活動およびアウトプットの例 ・数学的な事実を実社会で使う場面に対して、自分の考えを動画でまとめることができる		知識・技能	●問題演習 ●スタサプテスト (50%)			●アウトプット型テスト ●活動の貢献度 (50%)			<教材> 問題集ニューステージ数学ⅠAⅡB演習・スタディサプリ・問題プリント <ICT> Padlet・Grapes・Geogebra・Keynote ・スプレッドシートほか <備考> 必要に応じて Web動画, Webソフトを活用する					
				思考力・判断力・表現力												
ドキュメント(記録化)の方法 <共有と振り返りの日常化>		・Google Classroom(進捗課題および予定の確認) ・Padlet(進捗共有および作品共有)		主体的に学習に取り組む態度												

2025年度 新渡戸文化中学校・高等学校				Unit Plan(年間シラバス)						担当	石井					
学年／コース		教科[中学]もしくは科目[高校]		重視される学びの自律型コンピテンシー												
高校3年 美術・フードデザイン・音楽コース		数学演習		自分をコントロールする Self-Control		他者とつながる Communication		新しい価値を創造する Creation								
				目標設定	選択	対話	つながり	情報活用	創造表現	内発動機						
時間数		使用教科書		✔	課題発見	✔	戦略的学習力	✔	言語スキル	✔	協働性	✔	データサイエンス	✔	クリエイティビティ	未来志向
2時間／週		ニューステージ数学演習Ⅰ AⅡBC 数研出版		✔	可能性発見	✔	自己修正	✔	双方向コミュニケーション	✔	ソーシャルリティ	✔	批判的思考	✔	論理的表現力	他者尊重
				✔	パーソナライズな学び	✔	レジリエンス	✔	感情のコントロール	✔	教科と社会を紐づける力	✔	情報リテラシー	<倫理観><双方向コミュニケーション><自己修正>		自己承認
	単元	単元の概要		学びの羅針盤(活動内容と評価基準)												
1 学期	・数学Ⅰ ・数学A	・ニューステージ数学Ⅰ 全範囲 ・ニューステージ数学A場合の数と確率		社会的視点 社会	A3 実社会から学びを得る		B3 実社会の問いを生む		C3 社会貢献のデザイン							
					実社会や世界のデータを検索し事象の数値を比較・分析したものを選択した方法で表現できる。※リアルな体験を通してB3につなげる可能性もある。											
2 学期	・数学A ・問題演習	・数学A場合の数と確率 ・数学A平面図形、空間図形 ・参考書、過去問題、模試問題の演習		他者の視点 地域	A2 本物の素材から学びを得る		B2 対話から問いを生む		C2 学外に向けて発表							
					日常の事象から問いを発見し、解を導くことができる。		日常の事象もしくは実社会の問題に対して、役割分担を行い、解決や創造のアウトプットを共創する。									
3 学期				個人的視点 個人	A1 教科書から学びを得る		B1 個人の問いを生む		C1 校内で発表をする							
					基本事項の本質的な理解につとめ、基本問題を解くことができる。		手順の違う解法など他者の意見の理解に努め、学び方に向き合う姿勢が見られる。また、それらを自己評価することができる。		学習成果を共有・プレゼンテーションおよび相互評価することができる。							
					関わり Engage		探究 Investigate		行動 Act							
				評価方法						学びのリソース(教材・ICT)						
本質的な問いまたは単元を貫く問いの例		創造的な活動およびアウトプットの例		知識・技能	●単元テスト ●受験対策ノート提出 ●授業時解答板書 ●問題プリント提出 ●スタサブ提出		●創作活動 ●受験対策ノート工夫 ●数学プレゼン		【教材】 ・問題集、参考書、スタサブ 【ICT】 ・教科書デジタルコンテンツ、スタサブ、GRAPES 【備考】							
数学ⅠAの既習内容の算数・数学としての統合的理解と活用		別解の理解と活用、応用問題、発展問題への理解と解法活用											思考力・判断力・表現力			
ドキュメント(記録化)の方法 <共有と振り返りの日常化>		受験対策ノート(My参考書)の恒常的使用		主体的に学習に取り組む態度												

2025年度 新渡戸文化中学校・高等学校				Unit Plan(年間シラバス)							担当					
学年／コース		教科[中学]もしくは科目[高校]		重視される学びの自律型コンピテンシー												
高校3年探究進学医療理系コース		物理		自分をコントロールする Self-Control			他者とつながる Communication		新しい価値を創造する Creation							
時間数		使用教科書		☐	課題発見	☐	戦略的学習力	☐	言語スキル	☐	協働性	☐	データサイエンス	☐	クリエイティビティ	未来志向
4時間／週		東京書籍 生物		☐	可能性発見	☐	自己修正	☐	双方向コミュニケーション	☐	ソーシャルリティ	☐	批判的思考	☐	論理的表現力	他者尊重
				☐	パーソナライズな学び	☐	レジリエンス	☐	感情のコントロール	☐	教科と社会を紐づける力	☐	情報リテラシー	<倫理観><双方向コミュニケーション><自己修正>		自己承認
単元		単元の概要		学びの羅針盤(活動内容と評価基準)												
1 学期	・さまざまな運動 ・気体の分子の運動 ・電気と磁気		・平面内の運動、剛体のつり合い、運動量 ・単振動、万有引力、気体分子の運動 ・電場と電位、電流、電流と磁気		社会・世界的視点	A3 実社会から学びを得る			B3 実社会の問いを生む			C3 社会貢献のデザイン				
						各種メディアや校外での活動と生物の学びをつなげることができる。			実社会にある生物に関わる社会課題について、自分の問いを生み出すことができる。			持続可能な社会に向けて、生物の学びを活用できる作品を作ることができる。				
2 学期	・波 ・電気と磁気 ・原子		・波(波、音、光) ・電磁誘導と電磁波 ・原子、原子核		他者・地域的視点	A2 本物の素材から学びを得る			B2 対話から問いを生む			C2 学外に向けて発表				
						実験での学びを、日常の事象へ繋げることができる。			グループワークを通して他者の意見を取り入れながら自分の考えを深めることができる			学びの成果を学校外の誰かに発信できる。				
3 学期					個人的視点	A1 教科書から学びを得る			B1 個人の問いを生む			C1 校内で発表をする				
						ワークシートを用いて学習内容が定着度を客観的に把握し、補うことができる。			授業の学びと日常を繋げて考えることができる。			学習成果をプレゼンテーションすることができる。また発表について相互評価することができる。				
						関わり Engage			探究 Investigate			行動 Act				
					評価方法						学びのリソース(教材・ICT)					
本質的な問いまたは単元を貫く問いの例 Heart		創造的な活動およびアウトプットの例 Hands			知識・技能		●単元テスト ●ワークシート			●創作活動 ●レポート ●授業態度 ●提出物 ●ワークシート			【<教材> 教科書・図説・授業プリント ・iPad・Libry・スタディサプリ <ICT> Keynote・Documentほか <備考> 課題提出は基本的にclassroom			
・「自然現象を数式で理解する。」		・単元の内容について「なぜだろう?」を考える			思考力・判断力・表現力											
ドキュメント(記録化)の方法 <共有と振り返りの日常化> Head		・ワークシート(手書き記入) ・問題集			主体的に学習に取り組む態度											

2025年度 新渡戸文化中学校・高等学校			Unit Plan(年間シラバス)							担当	高橋正					
学年／コース		教科[中学]もしくは科目[高校]		重視される学びの自律型コンピテンシー												
高校3年探究進学医療理系コース		化学		自分をコントロールする Self-Control		他者とつながる Communication		新しい価値を創造する Creation								
				目標設定	選択	対話	つながり	情報活用	創造表現	内発 動機						
時間数		使用教科書		☑	課題発見	☑	戦略的学習力	☑	言語スキル	☑	協働性	☑	データサイエ ンス	☑	クリエイティ ビティ	未来 志向
4時間／週		東京書籍 化学 (理論編・物質編)		☑	可能性発見	☑	自己修正	☑	双方向コミュ ニケーション	☑	ソーシャリティ	☑	批判的思考	☑	論理的表現力	他者 尊重
				☑	パーソナライ ズな学び	☑	レジリエンス	☑	感情の コントロール	☑	教科と社会を 結ぶ力	☑	情報リテラ シー	<倫理観><双方向コミュ ニケーション><自己修正>	自己 承認	
				学びの羅針盤(活動内容と評価基準)												
1 学期	単元	単元の概要		視点 社会・世界的視点	A3 実社会から学びを得る		B3 実社会の問いを生む		C3 社会貢献のデザイン							
	化学基礎の確認 0編 人間生活のなかの化学 1編 物質の状態 2編 化学反応とエネルギー 3編 化学反応の速さと平衡	選択した生徒の受験・進路を考え、教科書の内容を入れ替えて実施することもある。	学期に1回、専門家からの講演・セミナーを実施し、自分の学びに自分のコメントを表現できる。		実社会にある化学に関わる社会課題について、自分の問いを生み出すことができる。	持続可能な社会に向けて、化学基礎の学びを活用できるコラムを書くことができる。										
2 学期	単元	単元の概要		視点 他者・地域的視点	A2 本物の素材から学びを得る		B2 対話から問いを生む		C2 学外に向けて発表							
	4編 無機物質 5編 有機化合物 6編 高分子化合物 7編 化学が果たす役割	選択した生徒の受験・進路を考え、教科書の内容を入れ替えて実施することもある。	実験での学びを、日常の事象へ繋げることができる。 社会課題と呼ばれるものの中から、化学と関連を発見し、課題の本質を表現できる。		対話により他者との意見を聞き発展できる。 新たな問いを見つけて、解決にこだわらず、外部への情報発信する材料を準備できる。	学びを学校外の誰かに発信できる。										
3 学期	単元	単元の概要		視点 個人的視点	A1 教科書から学びを得る		B1 個人の問いを生む		C1 校内で発表をする							
	一般受験に向けて	各種講習を予定	化学基礎の内容を定着しながら化学を学ぶ。授業プリントを用いて学習内容が定着度を客観的に把握し、補うことができる。実験技能を身につける。		教科の学びを教科書のコラムやNewsPicksと繋げることができる。理科的な思考力を深められる。	学習成果をプレゼンテーションすることができる。また発表について相互評価することができる。										
				関わり Engage		探究 Investigate		行動 Act								
				評価方法				学びのリソース(教材・ICT)								
本質的な問いまたは単元を貫く問いの例		創造的な活動およびアウトプットの例		知識・技能	●単元テスト(30%) ●チェックテスト ●Think & Quest (20%)		●創作活動 ●レポート ●授業態度 ●提出物 ●ワークシート ●活動の貢献度 (50%)		<教材> 教科書・図説・授業プリント・iPad <ICT> Keynote・Document(ほか <備考> try it 化学(Web動画)は家庭学習や自主学習で活用する							
・化学と自分の身の周りとの繋がりを説明せよ。		・単元の内容について「なぜだろう？」を考えるきっかけを意識して、専門用語を用いながら、筋道を立てて言語化できるようにする。														
ドキュメント(記録化)の方法 <共有と振り返りの日常化>		・授業プリント(手書き記入) ・GoogleClassroom ・ロイロノートによる画像、動画、スライド		主体的に学習に取り組む態度												

2025年度 新渡戸文化中学校・高等学校				Unit Plan(年間シラバス)						担当	木村	
学年／コース		教科[中学]もしくは科目[高校]		重視される学びの自律型コンピテンシー								
高校3年／探究進学医療理系コース		生物		自分をコントロールする Self-Control		他者とつながる Communication		新しい価値を創造する Creation				
				目標設定	選択	対話	つながり	情報活用	創造表現	内発動機		
				課題発見	戦略的学習力	言語スキル	協働性	データサイエンス	クリエイティビティ	未来志向		
時間数		使用教科書		可能性発見	自己修正	双方向コミュニケーション	ソーシャリティ	批判的思考	論理的表現力	他者尊重		
4時間／週		東京書籍 生物		パーソナライズな学び	レジリエンス	感情のコントロール	教科と社会を紐づける力	情報リテラシー	<倫理観><双方向コミュニケーション><自己修正>	自己承認		
単元		単元の概要		学びの羅針盤(活動内容と評価基準)								
1 学期	1編 生物の進化 2編 生命現象と物質	1編 1章:生命の起源と細胞の進化 2章:遺伝子の変化と進化のしくみ 3章:生物の系統と進化 2編 1章:細胞と物質 2章:代謝とエネルギー		社会・世界的視点	A3 実社会から学びを得る 各種メディアや校外での活動と生物の学びをつなげることができる。		B3 実社会の問いを生む 実社会にある生物に関わる社会課題について、自分の問いを生み出すことができる。		C3 社会貢献のデザイン 持続可能な社会に向けて、生物の学びを活用できる作品を作ることができる。			
2 学期	3編 遺伝情報の発現と発生 4編 生物の環境応答 5編 生態と環境	3編 1章:遺伝情報とその発現 2章:発生と遺伝子発現 3章:遺伝子を扱う技術 4編 1章:動物の刺激の受容と反応 2章:動物の行動 3章:植物の環境応答 5編 1章:個体群と生物群集 2章:生態系の物質生産と物質循環 3章:生態系と人間生活		他者・地域的視点	A2 本物の素材から学びを得る 実験での学びを、日常の事象へ繋げることができる。 社会課題と生物の学びを繋げ、課題の本質を表現できる。		B2 対話から問いを生む グループワークを通して他者の意見を取り入れながら自分の考えを深めることができる。		C2 学外に向けて発表 学びの成果を学校外の誰かに発信できる。			
3 学期				個人的視点	A1 教科書から学びを得る ワークシートを用いて学習内容が定着度を客観的に把握し、補うことができる。		B1 個人の問いを生む 授業の学びと日常を繋げて考えることができる。		C1 校内で発表をする 学習成果をプレゼンテーションすることができる。また発表について相互評価することができる。			
				関わり Engage		探究 Investigate		行動 Act				
				評価方法					学びのリソース(教材・ICT)			
本質的な問いまたは単元を貫く問いの例		創造的な活動およびアウトプットの例		知識・技能	●単元テスト ●ワークシート		●創作活動 ●レポート ●授業態度 ●提出物 ●ワークシート		<教材> 教科書・図説・授業プリント ・iPad・Libry・スタディサブリ <ICT> Keynote・Documentほか <備考> 課題提出は基本的にclassroom			
・「生命」とはなんだろう？		・単元の内容について「なぜだろう？」を考える きっかけを意識して、専門用語を用いながら、 筋道を立てて言語化できるようにする。										
ドキュメント(記録化)の方法 <共有と振り返りの日常化>		・ワークシート(手書き記入) ・セミナー生物基礎・生物(Libry含む) ・スタディサブリ		主体的に学習に取り組む態度								

2025年度 新渡戸文化中学校・高等学校				Unit Plan(年間シラバス)						担当	田中常浩	
学年／コース		教科[中学]もしくは科目[高校]		重視される学びの自律型コンピテンシー								
高校3年α・β・探究		論理・表現Ⅲ		自分をコントロールする Self-Control		他者とつながる Communication		新しい価値を創造する Creation				
時間数		使用教科書		目標設定	選択	対話	つながり	情報活用	創造表現	内発動機		
2時間／週		Earthrise Logic & Expression Ⅲ		☒ 課題発見	☒ 戦略的学習力	☒ 言語スキル	☒ 協働性	☐ データサイエンス	☒ クリエイティビティ	未来志向		
				☒ 可能性発見	☐ 自己修正	☒ 双方向コミュニケーション	☐ ソーシャルリティ	☒ 批判的思考	☒ 論理的表現力	他者尊重		
				☒ パーソナライズな学び	☒ レジリエンス	☒ 感情のコントロール	☐ 教科と社会を紐づける力	☐ 情報リテラシー	<倫理観><双方向コミュニケーション><自己修正>	自己承認		
単元	単元の概要			学びの羅針盤(活動内容と評価基準)								
1 学期	・L1～L5	・意見・希望・欲求を述べる ・賛成・反対を述べる ・勧誘する・招待する、期待する ・計画・意図を述べる ・提案・助言を行う	社会・世界的視点	A3 実社会から学びを得る		B3 実社会の問いを生む		C3 社会貢献のデザイン				
						社会課題をテーマにした英文を読みこみ、自分なりの問いを設定する。						
2 学期	・L6～L10	・程度・譲歩を述べる ・依頼・要請を行う ・許可を求める ・謝罪する・謝罪に応じる ・感謝・喜びを述べる	他者・地域の視点	A2 本物の素材から学びを得る		B2 対話から問いを生む		C2 学外に向けて発表				
				コンテキストを意識しながら適切な英語表現を選択できるようにする。 英語を用いながら社会的テーマを学ぶ。		社会的テーマを中心に対話し、相互に気づきや課題を見つけ出す。 コンテキストを考えに入れた英語表現ができるように練習する。						
3 学期			個人的視点	A1 教科書から学びを得る		B1 個人の問いを生む		C1 校内で発表をする				
				基本的な英語表現をRepetition(繰り返し)を通して実際のコミュニケーションで使えるようにする		身の回りのことや社会問題に触れ、自分のことばで考察できるようにする。		自分の意見をOREOで構成し、トークや対話を通して共有し相互評価することができる。				
				関わり Engage		探究 Investigate		行動 Act				
				評価方法				学びのリソース(教材・ICT)				
本質的な問いまたは単元を貫く問いの例 Heart		創造的な活動およびアウトプットの例 Hands		知識・技能	・単元テスト ・音読テスト ・アウトプット型テスト (30%)				【教材】 ・Lesson video ・Factbook ・Practical Reading / Listening			
場面ごとにどんな表現が適切かを考え、Repetition(繰り返し)によって身につける。 英語を英語のまま理解・解釈できるように練習する。		・自分のこれまでの活動や意見をまとめ表明する。 ・ライティング作業を通して、論理的な思考をアウトプットする。		思考力・判断力・表現力	・ライティングシート ・英作文 ・アウトプット型テスト (30%)				【ICT】 ・教科サイト、iPad など			
ドキュメント(記録化)の方法 <共有と振り返りの日常化> Head		・Google Classroom(進捗課題および予定の確認) ・Loilo note(英語表現、単元テスト)"		主体的に学習に取り組む態度	・レッスンビデオ視聴 ・プリント課題 ・Reflection (40%)							

2025年度 新渡戸文化中学校・高等学校			Unit Plan(年間シラバス)										担当	野沢和弘									
学年／コース			教科[中学]もしくは科目[高校]		重視される学びの自律型コンピテンシー																		
高校3年音楽コース			音楽／器楽		自分をコントロールする Self-Control			他者とつながる Communication			新しい価値を創造する Creation												
					目標設定	選択		対話	つながり	情報活用	創造表現	内発動機											
時間数			使用教科書		☒	課題発見		☒	戦略的学習力		☐	言語スキル		☐	協働性		☐	データサイエンス		☒	クリエイティビティ		未来志向
1時間／週			なし		☒	可能性発見		☒	自己修正		☒	双方向コミュニケーション		☐	ソーシャリティ		☐	批判的思考		☒	論理的表現力		他者尊重
					☒	パーソナライズな学び		☒	レジリエンス		☒	感情のコントロール		☐	教科と社会を紐づける力		☐	情報リテラシー		<倫理観><双方向コミュニケーション><自己修正>			
単元			単元の概要		学びの羅針盤(活動内容と評価基準)																		
1 学期	・演奏技術を高める		・個々の技術を高め演奏の完成度を上げる。		社会的視点	A3 実社会から学びを得る			B3 実社会の問いを生む			C3 社会貢献のデザイン											
						参考音源を聴き自分達が目指す演奏を想像して練習に取り組む事ができる。			合わせる事でわかる他者の動きを感じながら演奏できるようになる。			(B3、C2より派生)											
2 学期	・曲を完成させる		・3年間の器楽のまとめ。合奏の楽しさを深く知る。		他者・地域的視点	A2 本物の素材から学びを得る			B2 対話から問いを生む			C2 学外に向けて発表											
						基礎トレーニングでやっている事を、曲に生かす事ができる。			曲調に合った音が全員で出せるよう、強弱記号や表現記号を確認して演奏する事ができる。			たくさんの人に聴いてもらう喜び、緊張感を感じる事ができる。											
3 学期					個人的視点	A1 教科書から学びを得る			B1 個人の問いを生む			C1 校内で発表をする											
						音形、音色、フレーズ、楽譜から読み取った事を演奏で表現できる。			吹けないところをなくすために、どのような練習をすれば良いか考え、自分と向き合う事ができる。			段取り、演奏、すべてを含め1つの本番である事を考えて準備をし、何が足りないか見つける事ができる。											
					関わり Engage				探究 Investigate				行動 Act										
					評価方法									学びのリソース(教材・ICT)									
本質的な問いまたは単元を貫く問いの例			創造的な活動およびアウトプットの例		知識・技能	●実技テスト (60%)			●創作活動 ●協同や発表 ●活動の貢献度 (40%)			<教材> 基礎トレーニング 和音練習 アメリカ民謡ファンタジー											
音楽創作の基礎を管楽器の独奏およびアンサンブルの観点から学ぶ。			独奏およびアンサンブル													<ICT> 必要に応じてweb動画を活用する							
ドキュメント(記録化)の方法 <共有と振り返りの日常化>			・Google Classroom(進捗課題および予定の確認)		主体的に学習に取り組む態度																		

2025年度 新渡戸文化中学校・高等学校				Unit Plan(年間シラバス)						担当	野津日名					
学年／コース		教科[中学]もしくは科目[高校]		重視される学びの自律型コンピテンシー												
高校3年音楽コース		演奏研究		自分をコントロールする Self-Control		他者とつながる Communication		新しい価値を創造する Creation								
				目標設定	選択	対話	つながり	情報活用	創造表現	内発動機						
時間数		使用教科書		☒	課題発見	☒	戦略的学習力	☒	言語スキル	☒	協働性	☐	データサイエンス	☒	クリエイティビティ	未来志向
2時間／週		任意		☒	可能性発見	☒	自己修正	☒	双方向コミュニケーション	☒	ソーシャルリティ	☒	批判的思考	☒	論理的表現力	他者尊重
				☒	パーソナライズな学び	☒	レジリエンス	☒	感情のコントロール	☒	教科と社会を紐づける力	☒	情報リテラシー	<倫理観><双方向コミュニケーション><自己修正>		自己承認
	単元	単元の概要		学びの羅針盤(活動内容と評価基準)												
1 学 期	合奏	・音楽の基礎的な要素リズム、メロディー、ハーモニーを用いて表現を身に付ける ・クラスで協力、分担して曲を作り上げる		社会・世界的視点	A3 実社会から学びを得る		B3 実社会の問いを生む		C3 社会貢献のデザイン							
					・歌詞作りや音楽作りに、インターネットやAIなど、現代的な助けとなるツールを使うことを覚える											
2 学 期	・即興 ・歌づくり	・音楽の基礎的な要素を用いて即興表現を身に付ける ・クラスで協力、分担して歌を作り上げる		他者・地域的視点	A2 本物の素材から学びを得る		B2 対話から問いを生む		C2 学外に向けて発表							
					・世界にある音楽を聴き体験することで、即興演奏へのヒントを獲得する		・グループで即興演奏することで、音楽を構成する要素を声部や役割という観点から見つめ、その事を意識しながら表現できるようになる									
3 学 期	・授業を行わない			個人的視点	A1 教科書から学びを得る		B1 個人の問いを生む		C1 校内で発表をする							
					・リズム、メロディー、ハーモニーなど、音楽の基礎となる要素を自由な発想で変化させながら即興で表現する		・即興演奏を楽譜や録音など、振り返ることのできる形に変え、自らの表現に考察を加え、より良いものに変えていく									
					関わり Engage		探究 Investigate		行動 Act							
					評価方法						学びのリソース(教材・ICT)					
本質的な問いまたは単元を貫く問いの例		創造的な活動およびアウトプットの例		知識・技能	学期末の演奏発表						【教材】任意の作品					
											【ICT】 ・YouTubeやインターネットのサイト、各種音楽アプリ					
ドキュメント(記録化)の方法 <共有と振り返りの日常化>		・Google Classroom(進捗課題および予定の確認)		主体的に学習に取り組む態度							【備考】					

2025年度 新渡戸文化中学校・高等学校			Unit Plan(年間シラバス)							担当	野津日名					
学年／コース		教科[中学]もしくは科目[高校]		重視される学びの自律型コンピテンシー												
高校3年音楽コース		演奏研究		自分をコントロールする Self-Control		他者とつながる Communication		新しい価値を創造する Creation								
				目標設定	選択	対話	つながり	情報活用	創造表現	内発動機						
時間数		使用教科書		☒	課題発見	☒	戦略的学習力	☒	言語スキル	☒	協働性	☐	データサイエンス	☒	クリエイティブティ	未来志向
1時間／週		任意のテキスト(楽譜)		☒	可能性発見	☒	自己修正	☒	双方向コミュニケーション	☒	ソーシャルリティ	☒	批判的思考	☒	論理的表現力	他者尊重
				☒	パーソナライズな学び	☒	レジリエンス	☒	感情のコントロール	☒	教科と社会を結ぶ力	☒	情報リテラシー	<倫理観><双方向コミュニケーション><自己修正>		自己承認
単元		単元の概要		学びの羅針盤(活動内容と評価基準)												
1 学期	合奏(個人練習中心)		・担当楽器の個人練習。1コーラス止まらず最後まで演奏することを目指す。 ・毎回授業後半に全員合奏を行う。		社会的視点	A3 実社会から学びを得る		B3 実社会の問いを生む		C3 社会貢献のデザイン						
	・インターネット等ICTを利用して楽曲情報(メロディー等)の取得。					インターネット利用時の著作権等のITリテラシーの醸成。(違法アップロード、ダウンロードに対する感覚、知識)										
2 学期	合奏(全体練習中心)		・全体合奏の練習。人に聴かせる音楽を目指す。 ・各人が他パートを良く聴き、自分のパートを全体と一体化することを目指す。		他者・地域的視点	A2 本物の素材から学びを得る		B2 対話から問いを生む		C2 学外に向けて発表						
	・原曲を良く聴き、メッセージ性と音楽3要素(リズム、メロディー、ハーモニー)を分析、考察する。					・グループ内外で左記事項に関して意見交換を行い、より深い考察を行う。 ・他パートの演奏を良く聴く。										
3 学期	・授業を行わない				個人的視点	A1 教科書から学びを得る		B1 個人の問いを生む		C1 校内で発表をする						
	・正確なリズム、メロディー、ハーモニーを演奏出来るようにする。他パートの中で自分パートの意味を認識する。					・全体及び自分パートがより良い演奏になる方策を考える。		校内で発表する場の提案を検討する。								
						関わり Engage		探究 Investigate		行動 Act						
					評価方法					学びのリソース(教材・ICT)						
本質的な問いまたは単元を貫く問いの例		創造的な活動およびアウトプットの例			知識・技能	学期末の演奏発表				【教材】任意の作品						
					思考力・判断力・表現力					【ICT】 ・YouTubeやインターネットのサイト、各種音楽アプリ						
ドキュメント(記録化)の方法 ＜共有と振り返りの日常化＞		・Google Classroom(進捗課題および予定の確認)			主体的に学習に取り組む態度					【備考】						

2025年度 新渡戸文化中学校・高等学校				Unit Plan(年間シラバス)				担当		川村・野津							
学年／コース			教科[中学]もしくは科目[高校]		重視される学びの自律型コンピテンシー												
高校3年音楽コース			ピアノ		自分をコントロールする Self-Control		他者とつながる Communication		新しい価値を創造する Creation								
					目標設定	選択	対話	つながり	情報活用	創造表現	内発動機						
時間数			使用教科書		☒	課題発見	☒	戦略的学習力	☒	言語スキル	☒	協働性	☐	データサイエンス	☒	クリエイティビティ	未来志向
1時間／週			任意のテキスト(楽譜)		☒	可能性発見	☒	自己修正	☒	双方向コミュニケーション	☒	ソーシャルリティ	☒	批判的思考	☒	論理的表現力	他者尊重
					☒	パーソナライズな学び	☒	レジリエンス	☒	感情のコントロール	☒	教科と社会を紐づける力	☐	情報リテラシー	<倫理観><双方向コミュニケーション><自己修正>		自己承認
	単元		単元の概要		学びの羅針盤(活動内容と評価基準)												
1 学期	・ピアノ表現		・自分自身で課題とする楽曲を選び、楽曲分析し、自分らしい演奏方法の模索する。 演奏表現や技術について、より深め、広げていく。		社会・世界的視点	A3 実社会から学びを得る		B3 実社会の問いを生む		C3 社会貢献のデザイン							
						自身の音楽的趣向や得意な表現方法とピアノ/やピアノ音楽とを照らし合わせ、ピアノ表現のより良い姿を作っていく。		今後、実生活や社会における活動の中で、ピアノ表現をどのような形で、どのような場面で活かしていけるかを考える									
2 学期	・ピアノ表現		・自分自身で課題とする楽曲を選び、楽曲分析し、自分らしい演奏方法の模索する。 演奏表現や技術について、より深め、広げていく。 ・ピアノ音楽についての知識を付け、自身の興味や技術などに沿った、恒常的に続けられる音楽実践の在り方について考える		他者・地域的視点	A2 本物の素材から学びを得る		B2 対話から問いを生む		C2 学外に向けて発表							
						課題としている楽曲の演奏の音声や映像から、表現の可能性、必要な技術について学ぶ		レッスンにおいて、自身の目指したい表現や課題としていることについて、言語化しつつ振り返り、課題により前向きに取り組んでいけることを目指す。									
3 学期	授業は行わない				個人的視点	A1 教科書から学びを得る		B1 個人の問いを生む		C1 校内で発表をする							
						楽譜から音の高さ、リズムなどの、演奏のために必要最低限のことを自らの力で読み解けるようになる。		演奏表現が無理なく行われるよう、より良い指使いや姿勢などを模索する。 楽曲に対して様々な表現を試しつつ、自らが目指す表現を探索する。		舞台発表する日程に合わせて、自身の到達すべき表現の形を想定し、練習計画を進捗状況に合わせて柔軟に修正しながら、発表に備える。							
						関わり Engage		探究 Investigate		行動 Act							
					評価方法					学びのリソース(教材・ICT)							
本質的な問いまたは単元を貫く問いの例			創造的な活動およびアウトプットの例		知識・技能	●学期末の演奏発表				【教材】任意の作品 【ICT】Google Classroomを使った授業の復習、疑問・質問などのやり取り 【備考】必要に応じてWeb動画等を活用する							
														思考力・判断力・表現力			
ドキュメント(記録化)の方法 <共有と振り返りの日常化>			・Google Classroom(進捗課題および予定の確認)		主体的に学習に取り組む態度												

2025年度 新渡戸文化中学校・高等学校				Unit Plan(年間シラバス)						担当	川村祥子						
学年／コース			教科[中学]もしくは科目[高校]		重視される学びの自律型コンピテンシー												
高校3年音楽コース			音楽／声楽		自分をコントロールする Self-Control		他者とつながる Communication		新しい価値を創造する Creation								
					目標設定	選択	対話	つながり	情報活用	創造表現	内発動機						
時間数			使用教科書		☒	課題発見	☒	戦略的学習力	☒	言語スキル	☒	協働性	☐	データサイエンス	☒	クリエイティビティ	未来志向
1時間／週			JOY of MUSIC,コールユーブンゲン		☒	可能性発見	☒	自己修正	☒	双方向コミュニケーション	☒	ソーシャルリティ	☐	批判的思考	☒	論理的表現力	他者尊重
					☒	パーソナライズな学び	☒	レジリエンス	☒	感情のコントロール	☒	教科と社会を結ぶ力	☒	情報リテラシー	<倫理観><双方向コミュニケーション><自己修正>		自己承認
	単元	単元の概要		学びの羅針盤(活動内容と評価基準)													
1 学期	・独唱と斉唱 ・	・個人の基礎技術を高めると共に、周りと音楽的にどのように関わっていくか、を体感的に学ぶ ・		社会的視点	A3 実社会から学びを得る				B3 実社会の問いを生む				C3 社会貢献のデザイン				
					様々な演奏を鑑賞し、多様な表現方法を学ぶ。				多様な価値観や個性を認め合い、その中での自己実現を探究する。				(B3,C2から派生)				
2 学期	・自作曲の歌唱 ・	・自作曲などの曲目を組み合わせて「卒業演奏会」に向けてのプログラムを制作し、練習する。 ・		他者の視点	A2 本物の素材から学びを得る				B2 対話から問いを生む				C2 学外に向けて発表				
					英語歌詞の発語法や表現を学ぶ。				自由な発想で斉唱することで、他者との表現の違いや、音楽的な素養の差異を知り、その中での自己表現を探究する。				(C1から派生)				
3 学期	授業なし	授業なし		個人的視点	A1 教科書から学びを得る				B1 個人の問いを生む				C1 校内で発表をする				
					声楽的な基礎技術を学ぶ。				個人レッスンを通して、自分自身の声の傾向と、技能向上を探究する。				互いに演奏を披露し合うことで、他者との表現の違いを比較したり、自らの課題と自己評価を経て、新たな課題を発見する。				
					関わり Engage				探究 Investigate				行動 Act				
					評価方法								学びのリソース(教材・ICT)				
本質的な問いまたは単元を貫く問いの例			創造的な活動およびアウトプットの例		知識・技能	●実技テスト(60%)				●創作活動 ●協同や発表 ●活動の貢献度(40%)				<教材> イタリア歌曲「Caro Laccio」、オペラアリア、ミュージカル曲、日本歌曲(任意) <ICT> 必要に応じてweb動画などを活用する <備考>			
声や声楽、協奏などへの興味や自発的な行動			様々な構成による声楽発表														
ドキュメント(記録化)の方法<共有と振り返りの日常化>			・Google Classroom(進捗課題および予定の確認)		主体的に学習に取り組む態度												

2025年度 新渡戸文化中学校・高等学校				Unit Plan(年間シラバス)				担当 川村祥子								
学年／コース		教科[中学]もしくは科目[高校]		重視される学びの自律型コンピテンシー												
高校3年音楽コース		音楽／ソルフェージュ		自分をコントロールする Self-Control		他者とつながる Communication		新しい価値を創造する Creation								
				目標設定	選択	対話	つながり	情報活用	創造表現	内発動機						
時間数		使用教科書		☒	課題発見	☒	戦略的学習力	☒	言語スキル	☒	協働性	☐	データサイエンス	☒	クリエイティビティ	未来志向
1時間／週		Joy of Music		☒	可能性発見	☒	自己修正	☒	双方向コミュニケーション	☐	ソーシャルリティ	☒	批判的思考	☒	論理的表現力	他者尊重
				☒	パーソナライズな学び	☒	レジリエンス	☒	感情のコントロール	☐	教科と社会を結ぶ力	☒	情報リテラシー	<倫理観><双方向コミュニケーション><自己修正>		自己承認
単元		単元の概要		学びの羅針盤(活動内容と評価基準)												
1 学期	・ソルフェージュの総まとめ・	・音の高さを読む、音の長さを読む、曲のノリを読む、曲のつくりを読む、曲の表情を読む、曲の裏側を読む、黙読のススメ・		社会的視点 社会・世界的視点	A3 実社会から学びを得る		B3 実社会の問いを生む		C3 社会貢献のデザイン							
					多様な音楽を鑑賞し、音楽の要素を分析し、楽曲を形づくっている要素について理解することができる。さらに、自分の言葉で楽曲の魅力を表現することができる。		鑑賞や表現活動から、音楽の特徴について触れ、音楽の諸要素の意味について考え、表現を工夫することができる。		多様な音楽に親しむとともに、楽曲の背景について理解して大切にすることができる。(表現活動についてはB3、C2より派生する場合もある。)							
2 学期	・楽曲のアナリーゼ・	・曲の背景を知り、音楽の要素を捉え、自分の言葉で表現する。 ・モチーフを使って作曲を行う。		他者の視点 地域的視点	A2 本物の素材から学びを得る		B2 対話から問いを生む		C2 学外に向けて発表							
					視唱などで音楽を表現し、聴音や創作活動で音楽を記譜することができる。また、音楽の要素について分析し、理論的に証明できる。		他者と課題を共有し、解決や創造のアウトプットを共創する。		(C1より派生)							
3 学期	授業なし	授業なし		個人的視点	A1 教科書から学びを得る		B1 個人の問いを生む		C1 校内で発表をする							
					音楽を形づくっている基本的な要素について理解し、楽譜を読んだり、分析することができる。		自ら表現したい音や音楽を追求するとともに、他者の意見を取り入れながら、学びに向き合うことができる。		オリジナル曲を発表し合い、相互評価することができる。							
					関わり Engage		探究 Investigate		行動 Act							
				評価方法						学びのリソース(教材・ICT)						
本質的な問いまたは単元を貫く問いの例		創造的な活動およびアウトプットの例		知識・技能	●単元テスト(10%) ●まとめテスト(20%)		●創作活動 ●協働や発表 ●活動の貢献度(40%)		＜教材＞ 音楽通論および授業プリント iPad							
音楽創作の基礎をソルフェージュの観点から学ぶ。		楽曲創作(声楽曲、器楽曲は任意)			思考力・判断力・表現力				＜ICT＞ Garage Band他音楽アプリ							
ドキュメント(記録化)の方法 ＜共有と振り返りの日常化＞		・Google Classroom(進捗課題および予定の確認)		主体的に学習に取り組む態度				＜備考＞ 必要に応じてWeb動画等を活用する								

2025年度 新渡戸文化中学校・高等学校				Unit Plan(年間シラバス)										担当	笹野・渡辺		
学年／コース			教科[中学]もしくは科目[高校]		重視される学びの自律型コンピテンシー												
高校3年美術コース			美術Ⅲ		自分をコントロールする Self-Control			他者とつながる Communication			新しい価値を創造する Creation						
					目標設定	選択		対話	つながり		情報活用	創造表現		内発 動機			
時間数			使用教科書		☒	課題発見	☒	戦略的学習力	☐	言語スキル	☐	協働性	☐	データサイエ ンス	☒	クリエイティビ ティ	未来 志向
6時間／週			日本文教出版		☒	可能性発見	☒	自己修正	☒	双方向コミュ ニケーション	☒	ソーシャリティ	☒	批判的思考	☒	論理的表現力	他者 尊重
					☒	パーソナライ ズな学び	☒	レジリエンス	☒	感情の コントロール	☒	教科と社会を 紐づける力	☐	情報リテラ シー	<倫理観><双方向コミュ ニケーション><自己修正>		自己 承認
単元		単元の概要		学びの羅針盤(活動内容と評価基準)													
1 学期	・油彩 ・デッサン ・ポートフォリオ ・プロデュース	・進路に向けて油絵制作、デッサン(自画像、静物) ・プロデュースをし、ポートフォリオの内容を充実させプレ ゼン力を高める		社会的視点	A3 実社会から学びを得る			B3 実社会の問いを生む			C3 社会貢献のデザイン						
					・フィールド活動を通して社会の課題 に目を向ける ・現代美術鑑賞			・作品コンセプトにより派生する場合 がある			社会課題を視覚化し伝えるデザイン を考える						
2 学期	・卒業制作	専門性を高め、完成度の高い作品制作を目指す		他者・地域的視点	A2 本物の素材から学びを得る			B2 対話から問いを生む			C2 学外に向けて発表						
					・作品鑑賞、表現の多様性 ・モチーフとの対話、丁寧に観察し構 造を理解する			・講評会を通して互いの作品を鑑賞す る、また自分の作品を客観視すること により作品の質を高める			・外部コンクール ・新渡戸祭、スタフェス						
3 学期				個人的視点	A1 教科書から学びを得る			B1 個人の問いを生む			C1 校内で発表をする						
					・完成度を高めるための専門性を磨く			・エスキースを重ねコンセプトを明確に する ・イメージしたものを言語化する ・物事を丁寧に観察する			・プレゼン型講評会 ・校内展示 ・3月に卒業制作展						
				関わり Engage			探究 Investigate			行動 Act							
				評価方法						学びのリソース(教材・ICT)							
本質的な問いまたは単元を貫く問いの例 ・内在するものをいかに表現できるか ・課題に対して何を解決することができるか				創造的な活動およびアウトプットの例 新渡戸祭、スタフェス、外部コンクール プロジェクト発表		知識・技能		●コンセプト ●作品 ●ポートフォリオ ●プレゼンテーション		●リアクションペーパー ●提出物 ●出席、授業にのぞむ姿勢		【教材】 ・授業資料 【ICT】 ・iPad、keynote、adobe 【備考】					
						思考力・判断力・ 表現力											
ドキュメント(記録化)の方法 <共有と振り返りの日常化>				主体的に学習に 取り組む態度													

2025年度 新渡戸文化中学校・高等学校			Unit Plan(年間シラバス)							担当	伊藤、燧、金石					
学年／コース		教科[中学]もしくは科目[高校]		重視される学びの自律型コンピテンシー												
高校3年		[高校]体育		自分をコントロールする Self-Control		他者とつながる Communication		新しい価値を創造する Creation								
				目標設定	選択	対話	つながり	情報活用	創造表現	内発動機						
時間数		使用教科書		☒	課題発見	☒	戦略的学習力	☒	言語スキル	☒	協働性	☐	データサイエンス	☒	クリエイティビティ	未来志向
3時間／週				☒	可能性発見	☒	自己修正	☒	双方向コミュニケーション	☒	ソーシャリティ	☒	批判的思考	☒	論理的表現力	他者尊重
				☒	パーソナライズな学び	☒	レジリエンス	☒	感情のコントロール	☒	教科と社会を紐づける力	☒	情報リテラシー	<倫理観><双方向コミュニケーション><自己修正>		自己承認
	単元	単元の概要		学びの羅針盤(活動内容と評価基準)												
1 学期	【種目名】サッカー・ラグビー 【種目名】創作ダンス・舞踊 【種目名】ハンドボール	【種目名】サッカーの基本動作を習得し試合中に発揮できるようにする。ラグビーの戦術を考えることができる。 【種目名】創作ダンスで表したいテーマにふさわしいイメージを仲間と表現できるようにする。 【種目名】ハンドボールの基本的な知識、技能を身に付ける。ゲームの中で自分自身の役割を理解し、仲間と作戦を立てたり、ポイントを教え合ったり、対話的な中でハンドボールの知識理解を一層深められるようにする。		社会・世界的視点	A3 実社会から学びを得る		B3 実社会の問いを生む		C3 社会貢献のデザイン							
					プロや大学生などのプレーの様子を動画等で学び、自分のプレーに生かすことができる。		スポーツにまつわる様々な課題について、興味や問いを持ち提案することができる。									
2 学期	【種目名】サッカー・ラグビー 【種目名】創作ダンス・舞踊 【種目名】ハンドボール	【種目名】サッカーの基本動作を習得し試合中に発揮できるようにする。ラグビーの戦術を考えることができる。 【種目名】創作ダンスで表したいテーマにふさわしいイメージを仲間と表現できるようにする。 【種目名】ハンドボールの基本的な知識、技能を身に付ける。ゲームの中で自分自身の役割を理解し、仲間と作戦を立てたり、ポイントを教え合ったり、対話的な中でハンドボールの知識理解を一層深められるようにする。		他者・地域的視点	A2 本物の素材から学びを得る		B2 対話から問いを生む		C2 学外に向けて発表							
					友達のプレーから良い点・悪い点をみつけ、自分のプレーに生かすことができる。		自他のプレーについて課題を見つけ、技能を高めるためのアドバイスをすることができる。									
3 学期				個人的視点	A1 教科書から学びを得る		B1 個人の問いを生む		C1 校内で発表をする							
					基本ルール・技術について、教科書から学ぶことができる。		自分のプレーについて課題を見つけ、技能を高めることができる。		試合や発表会など学んだ基礎技能を実践で使うことができる。							
				関わり Engage		探究 Investigate		行動 Act								
				評価方法						学びのリソース(教材・ICT)						
本質的な問いまたは単元を貫く問いの例		創造的な活動およびアウトプットの例		知識・技能	●技能・筆記テスト(50%) ●授業参加度(20%) アウトプット・単元テストの公欠や出席停止は追試をする(点数はそのまま)、普通の欠席は追試はしない。		●アウトプット型テスト(30%)		【教具】 ・体育用具							
・生涯を通してスポーツとどう関わることができるか ・自他の課題解決のためにどう行動するか		試合や発表会など学んだ基礎技能を実践で使うことができる。							【ICT】 ・iPad ・ロイロノート ・クラスルーム							
ドキュメント(記録化)の方法 <共有と振り返りの日常化>		ロイロノートなど		主体的に学習に取り組む態度						【備考】						

2025年度 新渡戸文化中学校・高等学校				Unit Plan(年間シラバス)						担当	戸叶					
学年／コース		教科[中学]もしくは科目[高校]		重視される学びの自律型コンピテンシー												
高校3年フードデザインコース		フードデザイン		自分をコントロールする Self-Control		他者とつながる Communication		新しい価値を創造する Creation								
				目標設定	選択	対話	つながり	情報活用	創造表現	内発動機						
時間数		使用教科書		☒	課題発見	☐	戦略的学習力	☐	言語スキル	☒	協働性	☐	データサイエンス	☒	クリエイティビティ	未来志向
6時間／週		教育図書 フードデザイン		☒	可能性発見	☒	自己修正	☒	双方向コミュニケーション	☒	ソーシャルリティ	☒	批判的思考	☐	論理的表現力	他者尊重
				☐	パーソナライズな学び	☐	レジリエンス	☒	感情のコントロール	☒	教科と社会を結ぶ力	☐	情報リテラシー	<倫理観><双方向コミュニケーション><自己修正>		自己承認
	単元	単元の概要		学びの羅針盤(活動内容と評価基準)												
1 学期	・発展的調理 ・マイプロジェクト ・アフタースクールへのおやつ提供	・服部栄養専門学校講師による調理実習 ・「食」×〇〇をテーマに、食に関するレポート作成 ・アフタースクール生徒へのおやつを調理・提供		社会的視点	A3 実社会から学びを得る		B3 実社会の問いを生む		C3 社会貢献のデザイン							
					授業だけでなく、地域や外部の専門家からより専門的なことを学び、自身の学びを深める。		授業での学びから「食」への社会課題に目を向け、自分たちができる解決方法を考える。また、専門家から話を聞くことで新たな疑問が生まれることもある。		A3、B3を重ねることで学びが深まり、学んだことを実社会に役立てるためにはどうすればいいのかを考えるきっかけになる。							
2 学期	・発展的調理 ・マイプロジェクト	・服部栄養専門学校講師による調理実習 ・中野区飲食店従事者へのインタビュー ・生徒が決めたテーマを深掘りし、発表		他者の視点	A2 本物の素材から学びを得る		B2 対話から問いを生む		C2 学外に向けて発表							
					学んだ内容を身につけ、実習に生かすことができる。また、「食」に関する社会課題について考えることで実社会で起きている問題に向き合う。		学んだ内容を実習のグループ内で共有し、役割分担を行いながら実習でアウトプットを共創する。		C1から学外に向けて発表する形に発展する場合もある。							
3 学期	・ ・	・ ・		個人的視点	A1 教科書から学びを得る		B1 個人の問いを生む		C1 校内で発表をする							
					各国食文化や調理技術など基本的内容の理解に努め、基本問題を解くことができる。		基本的内容の理解に努めた上で、そこへの疑問など学び方に向き合う姿勢が見られる。また、それらを自己評価することができる。		学んだ学習効果をプレゼンテーション、および相互評価することができる。また、身につけた調理スキルを使って学内販売などで成果を発表することができる。							
					関わり Engage		探究 Investigate		行動 Act							
				評価方法						学びのリソース(教材・ICT)						
本質的な問いまたは単元を貫く問いの例 Heart		創造的な活動およびアウトプットの例 Hands		知識・技能	●単元テスト ●出欠 ●身だしなみ		●創作活動 ●協働や相互評価 ●発表または共有 ●活動の貢献度 ●学習の進捗状況		【教材】							
「食」とは何か		「食」とは何かについて自分の言葉で表現し、アウトプットすることができる。							【ICT】 ・教科サイト							
				思考力・判断力・表現力					【備考】							
ドキュメント(記録化)の方法 <共有と振り返りの日常化> Head		"・Google Classroom(進捗課題および予定の確認) ・ドキュメント"		主体的に学習に取り組む態度												